

## 沖縄県サンゴ礁保全推進協議会 第3回総会 議事録

- 日時：平成22年9月19日（日）13:15～15:15
- 場所：沖縄大学2号館2-304教室
- 出席：26名
- 委任状：15名
- 議決行使権：16名
- 事務局：沖縄県文化環境部自然保護課（渡嘉敷彰・玉城正博）
- 運営委員：長田智史・山川英治（沖縄県環境科学センター）、木村匡（自然環境研究センター）

有効会員数（2年連続で参加・不参加の連絡をしていない会員を除く）83名中、上記26名の出席者及び15名の委任状と16名の議決行使権送付者、合計57名により、成立要件である会員の過半数42名を満たしたので総会が成立、事務局より提出された議案を協議した。

### **1. 第一号議案：平成21年度事業報告**

平成21年度に行った以下の6つの事業について事務局から説明され、内容について会員の承認を受けた。

#### 1) 沖縄県のサンゴ礁についての現状取りまとめ

##### 計 画：情報の収集と提供

沖縄県内のサンゴ礁に関する既存情報を収集し、サンゴ礁の現状について取りまとめる。取りまとめた情報は本協議会内で共有するとともに、本協議会ホームページ等を通じて一般にも発信する。また、会員の活動内容、専門性、提供できるサービスなどの情報を収集し、サンゴ礁保全に関する人材情報を蓄積する。

**実 績：**県内のサンゴ礁に関する既存情報の収集等にあたっては、協議会内で、収集や整理するための体制が、十分検討されていないことから、うまく実施できていない状況であるが、今後は、既存調査等の結果を収集し、協議会ホームページで閲覧が可能になるように取り組んでいきたい。

#### 2) 沖縄県におけるサンゴ礁保全についての提案

##### 計 画：サンゴ保全のための提言

サンゴ礁保全に必要な対策や保全活動の方向、実施可能な保全活動などを提案する。それらの提案は本協議会内で共有するとともに、本協議会ホームページ等を通じて一般にも発信する。

**実 績：**都市部で生活する方々に、サンゴ礁保全の現状を正しく認識し、また、時々々の状況に合わせた行動をとるなど、サンゴ礁保全の基礎的な考え方を生活に取り入れてもらうための普及啓発の一環として、パネル座談会「サンゴ礁保全って何？」を開催

### 3) 自然資源に関する地域での意識調査

#### 計 画：情報の収集

WWF ジャパン（以下、「WWFJ」）より、平成 21 年度に南西諸島の自然資源に関する地域での意識調査の一環として実施する、沖縄県及び鹿児島県奄美地域での地域調査に関し、本協議会との連携による情報の提供が提案されている。これは、南西諸島の各地域において、サンゴ礁を含む自然資源を地域住民がどのように認識しているかを把握するための意識調査である。

そこで、本協議会では平成 21 年度の活動として、調査内容の検討、関係者への連絡調整及び現地調査等について、WWFJ と連携してその実施に協力する。

**実 績：** WWF ジャパンの南西諸島生物多様性評価プロジェクトの実施に際して、地域におけるサンゴ礁を含む自然資源を地域住民がどのように認識しているかを把握するための意識調査の情報の収集について協力した。

### 4) 資金調達に関する戦略の検討

#### 計 画：資金の収集と提供

今後の本協議会の自立的運営を含み、必要とされるサンゴ礁保全活動に対して、どのようにその資金を獲得するか、その方法を戦略的に検討する。

**実 績：** ①オキナワマリンリサーチセンター OMR C 助成事業への申請（不採択）  
②アジェンダ 21 への申請（採択）

### 5) その他の活動

#### (1) 理事会及び総会の開催

- ・平成 21 年 6 月 14 日に第 5 回理事会及び第 2 回総会を開催した。

#### (2) 第 2 回美ら海写真展への出展

- ・7 月 27 日～8 月 26 日に那覇空港ウェルカムホームにて開催された沖縄県ダイビング安全対策協議会主催の展示会に自然保護課が共催として協力。ポスター展示及びパンフレット配布により「沖縄県サンゴ礁保全推進協議会」の PR 活動を実施。

#### (3) 海洋博研究センター サンゴシンポジウム

サンゴの移植 ―諸外国の事例に学ぶ サンゴ礁保全の取り組み―（後援）

- ・平成 21 年 11 月 26 日に海洋博記念公園管理財団・総合研究センター主催で開催したシンポジウム「サンゴの移植-諸外国の事例に学ぶサンゴ礁保全の取り組み」の後援を行った。

#### (4) 県民環境フェア in いとまんへの出展

- ・平成 21 年 11 月 29 日に糸満市の道の駅で開催された「県民環境フェア」において、沖縄県ダイビング安全対策協議会、海洋博記念公園管理財団、自然保護課の協力によりパネル、写真及び環境教育関連の冊子等を展示した。

#### (5) 第 3 回「シンポジウム&NPO・社会起業 見本市（メッセ）」への出展

- ・平成 22 年 1 月 20 日に丸ビルホール（東京都千代田区）で開催された社団法人経済同友会主催の上記シンポジウムに参加し、企業経営者や各企業 CSR 担当者と意見交換を行い、「沖縄県サンゴ礁保全推進協議会」のポスター展示及びパンフレット配布により PR 活動を実施した。

(6) パネル座談会「サンゴ礁保全って何」の開催

～サンゴ礁に住まう私たちだから、都会からできる保全を考える～

- ・平成 22 年 2 月 27 日に沖縄県立博物館・美術館の共催により、上記座談会を開催。協議会理事を含め 5 名のパネリストにより、自然保護、漁業、観光、環境教育等の視点からサンゴ礁の保全について情報提供した。

(7) サンゴ礁イメージコンテストの実施

- ・上記座談会にあわせ、サンゴ礁をイメージする写真及び絵画を募集し、ユニークで優秀な作品を審査・選考し、入賞作品を座談会において表彰した。

(8) サンゴの日パネル展

- ・平成 22 年 3 月 5 日のサンゴの日に、県庁 1 階ロビーにおいて、自然保護課の作成したパネルやサンゴ礁コンテストの作品を展示した。

(9) 三井物産環境基金活動助成事業『久米島応援プロジェクト』

- ・WWF ジャパンが三井物産環境基金の助成を受けて平成 21 年から 23 年度に実施する、久米島におけるサンゴ礁保全（赤土対策）と地域振興を目標としたプロジェクト「久米島応援プロジェクト」と連携し、情報交換や普及啓発活動などを通して協力する。

◆ 平成 21 年度事業報告に対する意見：

- ・助成金が不採択になった理由についての質問に対し、助成対象が事務局等の運営費ではなく、個々の活動を想定されていたためとの説明が事務局からなされた。
- ・協議会のスタンスは様々な主体のネットワークであり、個別のサンゴ礁保全活動を実施するのではなく、共催のための名義貸与や人材、場所等を協議会のメンバーから提供する形で活動支援を行うことが確認された。

**2. 第二号議案：平成 21 年収支決算報告**

平成 21 年度の活動にかかる収支決算について、事務局から以下のように説明され、会員からの承認が得られた。また、監査役の衛生環境研究所・城間博正氏より、規約 14 条第 3 項に基づき平成 21 年度の会計監査を実施し、関係帳簿及び預金通帳等を元に、適正に管理運営されていることを確認したと報告された。

● 収 入

1) 寄付	500,000 円
2) その他助成金等	50,000 円
3) 預金利息	115 円
4) 前年度繰越金	52,470 円
<b>収入合計</b>	<b>602,585 円</b>

## ● 支 出

1) 活動費	47,290 円 (サンゴ礁コンテスト)
2) 謝金	72,000 円 (パネル座談会)
3) 次年度繰越金	483,295 円

---

**支出合計 602,585 円**

## ■ 平成 21 年度収支決算報告についての意見

- ・ 平成 21 年度収入のうち、「企業等からの寄付はあるか」との質問に対し、寄付は個人からのものであると回答された。

## **3. 第三号議案：平成 22 年度事業計画**

平成 22 年度事業計画について、事務局から以下の 5 つの活動計画が説明され、会員の承認が得られた。

- 1) 沖縄県のサンゴ礁についての現状取りまとめ
- 2) 沖縄県におけるサンゴ礁保全についての提案
- 3) 自然資源に関する地域での意識調査
- 4) 資金調達に関する戦略の検討
- 5) その他の活動計画
  - (1) 理事会及び総会の開催
    - ・平成 22 年 6 月に第 5 回理事会、7 月に第 6 回理事会、第 3 回総会を 9 月に開催。
  - (2) 第 3 回美ら海写真展への出展
    - ・平成 22 年 7 月 27 日から 8 月末まで開催されていた沖縄県ダイビング安全対策協議会主催の「第 3 回美ら海展」(写真展)において協議会のパネルやパンフレットを用いて PR 活動を実施した。
  - (3) サンゴ礁イメージコンテストの実施
    - ・下記の環境フェアに合わせ、「あなたのサンゴ礁イメージ展」第 2 回を開催する。先週応募要項を配布し、10 月 22 日まで作品を募集する。
  - (4) 環境フェアへの出展
    - ・平成 22 年 10 月 31 日に豊見城の道の駅で開催される環境フェアに参加し、上記コンテストの優秀作品を含む応募作品を展示したい。
  - (5) シンポジウムの開催
    - ・サンゴ礁保全のためのシンポジウムを開催したい。
  - (6) サンゴの日パネル展
    - ・来年 3 月 5 日のサンゴの日に、県庁 1 階ロビーで展覧会(1 週間程度)を開催したい。
  - (7) パネル作成
    - ・現在、協議会活動 PR のためのポスターが 1 枚しかないため、会員から写真を募集し、10 枚程度のポスターを作りたい。

(8) 生物多様性年関連のイベント

- ・今年には生物多様性年でもあるので、シンポジウムの開催やパネル座談会等生物多様性年に関連させた県内のイベントとして、会員に協力いただいてパネル展示等できないか検討したい。

(9) 三井物産環境基金活動助成事業『久米島応援プロジェクト』

- ・WWFJ が主体となって実施している三井物産助成金久米島プロジェクト（平成 21 年度から 3 年事業）は今年度も継続されるので、協議会としても協力したい。

(10) その他活動に必要な事項

- ・これら以外にも協議会として取り組むべきものがあれば検討したいので知らせてほしい。

■ 平成 22 年度事業計画についての意見

- ・特に事業計画には含まれていないが、協議会の HP を日本サンゴ礁学会などの関係機関の HP とリンクさせることを検討して欲しい。
- ・協議会から団体や個人に委託して事業ができるかとの質問に対し、協議会は個々の保全活動を実施するのではなく、様々な個人や団体のネットワークとして、会員や他機関の活動を共催や人材及び場所の提供という形で支援する立場にあることが確認された。特に観察会を主催する団体から専門家との連携をしたいとの意見があった。
- ・最近の移植についての活発な活動の中で、情報共有に関して、協議会が何らかの形で貢献することが期待されている。
- ・日本サンゴ礁学会が 2 年に 1 度沖縄で開催されるので、連携して交流会やフォーラムなどの活動ができるかもしれない。また、環境教育フォーラムや海辺の環境教育フォーラムなど、他のネットワークとの連携も可能だろう。
- ・様々な移植手法が実際に観察、体験できるようなデモンストレーションサイトを検討する時期にきている。
- ・保全に関するイベントを実施する際に、会場費等の経費をまかなう程度の参加費を徴収すれば、助成金等の資金を調達しなくても活動が可能である。
- ・サンゴ礁に関する専門的な情報だけでなく、助成金情報なども活発に交換できるような情報網の仕組みが必要。協議会の HP やメーリングリストを活性化すれば十分活用できる。
- ・協議会としては、会員と競合するような助成金申請は避ける配慮が必要。

#### 4. 第四号議案：平成 22 年度収支予算

平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日までの予算（案）が事務局から説明され、若干の修正（支出の「次年度繰越金」を「予備費」に修正）をすることで、会員の承認が得られた。

##### ● 収 入

1) 寄付	100,000 円
2) その他助成金等	100,000 円（アジェンダ 21 など）
3) 前年度繰越金	483,295 円
<b>収入合計</b>	<b>683,295 円</b>

##### ● 支 出

1) 会議費	50,000 円（総会、理事会）
2) 活動費	77,000 円
・ パネル作成費	(27,000 円)
・ シンポジウム開催費	(50,000 円)
3) 運営費	5,000 円
・ 通信費	(5,000 円)（切手代）
4) 負担金	6,000 円
・ アジェンダ 21 会費	(5,000 円)
・ 環境フェア出展費用	(1,000 円)
5) 謝金	18,000 円
6) 旅費	214,600 円（理事の総会、理事会参加旅費）
7) <del>次年度繰越金</del> 予備費	312,695 円
<b>支出合計</b>	<b>683,295 円</b>

##### ■ 平成 22 年度収支予算についての意見

- ・ 寄付の見込みを 10 万円としているが、募金箱を設置して収集する方法もある。
- ・ 協議会活動のために、会費の徴収が必要ではないかとの意見に対し、今年度も会費は無しとして運営することが合意された。
- ・ 個々の会員の活動資金調達のため、助成金等の応募が奨励されるが、助成金申請のために協議会の名義を貸与することはしない。あくまで活動やイベントの共催や、人材及び場所の提供、活動内容についてのアドバイスや情報提供という形で

会員の活動を支援する。

- ・ 総会等の機会を利用して、会員が様々な情報にふれ、専門的知識や最新情報等を学べる場を提供して欲しい。

## **5. 第五号議案：第2回選挙結果**

選挙管理委員会の上里幸秀会員（県農林水産部森林緑地課）より、9月17日に開票が行われた選挙結果についての報告があり、会員によりその結果が承認された。選挙の結果、会長1名（中野義勝）、理事20名（梶原健次・具志堅宗弘・後藤亜紀・桜井国俊・上里幸秀・中谷誠治・沖縄リーフチェック研究会・エコガイドカフェ・WWF ジャパン・NPO 法人沖縄県ダイビング安全対策協議会・環境省那覇自然環境事務所・特定非営利活動法人グローイングコーラル・泡瀬干潟を守る連絡会・沖縄県漁業協同組合連合会・八重山サンゴ礁保全協議会・有限会社コーラルクエスト・沖縄県文化環境部自然保護課・渡嘉敷ダイビング協会・特定非営利活動法人沖縄エコツーリズム推進協議会）、監査役2名（沖縄県衛生環境研究所・沖縄県文化環境部環境整備課）が決定した。ただし、副会長は鹿熊信一郎会員と西平守孝会員が同数であったため、規約に基づいて抽選を行うが、台風のために総会に鹿熊会員が欠席したため、選挙管理委員会が責任を持って調整を行い、結果を会員に知らせる。

### ■ 第2回選挙結果についての意見

- ・ 得票数は公表するのかという質問に対し、これまでは公表していないが、要望があれば個別に対応すると選挙管理委員会より回答された。

## **6. 第六号議案：その他**

理事の寺田会員と監査の中山会員から辞任の申し出があったため、6月に開催した第5回理事会において検討した結果、両者の辞任を受け入れ、寺田理事の後任は特に置かず、中山監査役の後任は前回選挙で次点であった沖縄県文化環境部環境整備課を検討するとした旨が事務局より説明され、会員の承認が得られた。

### ■ その他についての意見

- ・ 役員の任期についての質問に対し、現行の規約では12月13日から2年間となっていると回答されたが、理事会で規約を改正できるなら、総会の時期及び選挙の時期を配慮し、なるべくわかりやすい期日から任期を開始するよう、検討すること

とが承認された。

- 総会の開催時期についても、年度計画を実施する上で計画案の承認と実施開始期間があまり空かないよう（少なくとも第 1 四半期中に総会を開催するなど）再検討することが合意された。
- 総会の議事についても、議長、副議長、書記の 3 名による議長団を置くことについて、正式に規約に記載するよう理事会で検討することが合意された。